

滋賀県工業技術総合センターの活動紹介

—多角支援の実例 彦根仏壇産地の支援をとおして

滋賀県工業技術総合センター 機械電子担当 山下誠児

◇ 滋賀県の試験研究機関の概要

滋賀県工業技術総合センターおよび滋賀県東北部工業技術センターは、ものづくり企業を支援する県立の試験研究機関である。

当センターは、時代の流れに対応した技術力の向上を図るため、広範な分野を支援（試験・研究・指導）する機関であった工業技術センターと、県内窯業の支援機関であった信楽窯業試験場を統合し発足した。滋賀県東北部工業技術センターは、繊維産業の支援機関であった繊維工業指導所と、主にバルブ産業の支援機関であった機械金属工業指導所を統合し発足した。

電子、機械・金属、有機無機材料、繊維、食品、

デザイン、窯業など広範な分野の研究開発用機器の開放拠点施設として、また業界ニーズに対応した技術開発の推進、その成果の技術移転、新製品・新技術開発に対する相談支援、産学官のコーディネート等の総合的な産業支援に取り組んでいる。

両センターのデザイン分野では、滋賀県庁のモノづくり振興課や公益財団法人滋賀県産業支援プラザ、ならびに滋賀県中小企業団体中央会と協力して産業支援を行っている。ここでは、平成25年2月に地域団体商標の登録を受けた彦根仏壇のナナプラスが、県立の試験研究機関や国、県、各種団体の支援メニューを活用し、コンセプト形成、製品試作・製造、展示会へ出展した事例をとおして、デザイン支援・振興について紹介する。

●モノづくり企業を支援する滋賀県の試験研究機関と各種団体

